

「夢育」：一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育（岡山県教育委員会）



安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実ほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）中山芳一



作品

小学生部門

お母さんが急に熱を出した。すこくしんどそうだった。すると4才の妹が氷枕を出して、タオルで包んで、母さんの頭にのせた。母さんは、びっくりした顔で笑って「ありがとうございます。」と言った。僕は、「しまったー、やられたー。」と後悔した。でも僕は、洗たく物をたたんだ。母さんがにっこりして、「助か

るわ。」と言った。この日のご飯は、父さんが用意した。そして3人で協力して一日を過ごした。母さんの大変さがわかった。次の日、母さんは、熱が下がり、にっこり元気ないつもの母さんだった。ぼくは、うれしかった。

大変な一日

マンガ／鞠音

注目!

夢育ポイント

家事を主にしてくれているお母さんが、急に体調が悪くて寝込んでしまい、父と子が協力して食事や洗濯をするという温かい家庭のエピソードですね。今回のポイントは「当たり前をありがたしに変える」です。つまり、やってくれて当たり前を当たり前と思わせない状況をつくること。これは、失ったものの大切さを知るという経験にもつながります。

病気のときは無理せず頼って、家族に貴重な経験をさせてあげましょう。寝込む機会がなかなか来ない方は、仮病を使ってもいいくらいです。子どもが初めておつかいに行く某テレビ番組でも、嘘をついて子どもをその気にさせていますよね。私はそれを「仕掛け」と呼んでいます。（中山芳一）